

中国国内で観光ツアーに参加して

● 放 眼 日 中 ●



コラムニスト・アジアソウオッチャー
須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。

先日、福建省アモイを訪れた際、ぼっかりと1日予定が空いた。ちょうど行ってみたかった世界遺産、永定の土楼への1日ツアーを募集していたので申し込んでみた。このツアーは中国人向けであり、中国語ができないと参加は難しいと言われたが、何とか潜り込むことに成功した。ホテルまでの送迎、入場料、昼食代も付いて、1人138元(約2300円)。果たしてどんなツアーなのか興味津々で出掛けた。

小型バスで各ホテルから集められ、参加者はアモイ郊外で大型バスに行先別に振り分けられる。その際、各人は携帯の末尾番号で呼ばれるのが面白い。そしてバスに乗り込むと、最初の注意事項が「今座っている席が今日1日のあなたの席です」。途中で勝手に席を替わり、トラブルになるケースが絶えないのだそう。そしてバスは途中でトイレ休憩。まだ午前の10時前だというのに、各人は店で売っているお菓子やフルーツを買い、皆立って食べ始めている。中国人観光客には、立って簡単に食べられるものをいかに提供するかが、店にとって重要だ。この辺は日本人を誘致する際にも参考になる。目的地的土楼に到着しても、すぐには参観しない。午前11時半、まずは昼食を食べさせられる。何といつても中国では食事が大事。レストラン

ンではガイドが各テーブルの人数を入念に数え、人数が多い所には皿数を増やすなど、相当の神経を使っている。食事は一番トラブルになりやすい。高級なものはないが、おかずの量は凄い！一体この旅行代金で儲けがいくら出るのか、旅行会社を心配してしまった。そしていよいよ土楼見学。最初の1時間は専門のガイドが案内してくれ、概要が分かる。だが、土楼の歴史や成り立ちなどに興味を持つ客はほとんどいない。とにかく、日本製の高級一眼レフなどで写真を撮りまくる。家族やカップルで来ている人は、奥さんや彼女がポーズを決め、夢中でシャッターを押している。大事な内容はなく、そこに行つたことを後で親戚や友人に話せるかだと、ある参加者は事もなげに言う。

自由時間は1時間半もあった。筆者などは時間を持て余したが、参加者は思い思いに買い物に熱中したよう。戦利品を抱え、時間ギリギリに戻ってきた。そこでは購入した品物の値段を比べ、いかにまげさせたかを熱く語り合う。帰りのバスは静まり返り、皆疲れて寝てしまった。中国人観光客のマナーに関して、日本およびアジア各国で色々と話題になっているが、今回の参加者(上海などの都市と田舎から来た人の混成)を見る限り、ごみの投げ捨てなどは見られたもの、おおむね時間も守られており、特に問題はなかった。旅行会社とガイドが彼らの特性を熟知し、上手く処理できれば、日本でもトラブルが防げるのかもしれない。